

# （シリーズ13）市町村合併を考える

現在、全国各地で、地方行政の構造改革と基礎的自治体である市町村の自治能力の向上を目指した、合併論議が高まっており、合併の協議会に参加している市町村数は1,858で、全国市町村の半数を超える状況になっております。

県内でも、本年3月に新南部町、4月には南アルプス市が誕生したほか、7つの地域で法定協議会、また、2つの地域で任意合併協議会がそれぞれ設置されるなど、各地域で協議が行われております。今回は、合併問題に対する本市の取り組み状況について紹介します。

## 住民発議に基づく4市町村合併協議会の設置は白紙に！

直接請求いわゆる住民発議に基づく、都留市、西桂町、秋山村及び道志村を対象とする合併協議会設置に関する議案は、本市と道志村が、昨年12月議会で、また、西桂町が本年3月議会で、それぞれ原案どおり可決されましたが、秋山村議会において3月20日に否決されたため、この度の住民発議による合併協議会設置につきましては白紙に戻ることになりました。



6月13日、3市町村長が集まり行われた中間報告会の様子

## 都留市、西桂町、道志村合併研究会発足

この結果を受け、都留市議会から市長あてに、法定合併協議会設置に関する議案を可決した都留市、西桂町、道志村の3市町村による任意合併協議会の設置を求める要望書が出され、また、同様の要望は、住民団体の「新しいまちを創造する会」からもあり、議会の議決や住民の意思を尊重し、新たな枠組みによる合併に対する調査研究を進めるため、3月27日に西桂町、同28日に道志村に、それぞれ任意合併協議会の設置について協議を申し入れましたところ、3市町村長の協議により、まず、広域的なまちづくりに関する調査研究を行うため、4月7日（以降8回開催）より職員による研究会が発足いたしました。

研究会では、3市町村が合併した場合のまちづくりの方向性などの議論を深める上で基礎資料となるよう報告書のとりまとめをおこなっております。6月13日、3市町村長が集まり中間報告会が開催されました。

## ネイチャーセンターガイド（65）

梅雨入りの6月10日、「早く梅雨明けよ」ともう願う心の叫び。野生動物に「逢いたい」「逢いたくない」「逢えない」の3つのこころ。距離を大事にね！！「人のくらし」と「野生動物のくらし」。

### ●「ドンコはどこからやってきた！！」

生態園の池ができて6年目をむかえたが今年、まったくといっていいほど「トンボの羽化」を見ることができなかった。心配で水中のヤゴの様子を確認したところ、クロスジギンヤンマのヤゴが数匹しかみつからなかった。数が少ない原因をひとつにしぼることはできないが、この池の中で4年前から異常に繁殖している「ドンコ」がヤゴをエサにしているのではないかとセンターでは考えている。はたしてドンコはヤゴを食べるのであろうか？

5月25日（日）、池に入り巨大ドンコの捕獲に成功した。センターの玄関にて飼育をはじめドンコの暮らしを見守っている。顔はまぬけ面でもってみても暴れずおとなしい、体の色は茶に黒の斑点がある。体の大きさはなんと「21cm」はある。いったい何を食べてあんなに大きくなったのか？この目で確かめてみたいのだ。獲物をとるときはものすごいスピードで動くものと推測している。観察が楽しみだ！！

### ●センターって、どんな施設なんだろう？？

「親にとって、大人にとって、子どもにとって、自分にとって・・・」と、こんなことが気になる今日この頃です。「工作ができる場所」「森へつれてってくれる

ところ」「いっしょに遊んでくれるところ」「ムササビをみにつれてってくれる」どんなところなのでしょう？宝の山ふれあいの里とは・・・皆さんのご意見を聞きたいです。お話をしてみたいです。

### ●梅雨の時期こそ、雨の魅力を感じて・・・

雨ばかりでいやな時期になりました。でも、雨の日にはできない遊びがありますよね。学校帰り、水たまりにおもいきりジャンプして泥水をかけあい、ずぶぬれになった思い出ありませんか？いまやこうした遊びをセンターのような施設で伝える時代になりました。遊びを通して学ぶこと、たくさんあるかと思えます。親が子に、地域が子に伝えていくことがたくさんあると思えます。「汚れるからよしなさい！！」「汚いからダメ！！」寂しさを感じる、大人の都合で生まれるこの言葉、寂しいです。体験を通して学ぶことの大切さの前提には「親が子を口を閉じて見守る」ことです。センターでは、職員がこのことを常に心がけています。

連絡・問合せ先 ☎(45)6222  
宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター  
開館時間：午前9時から午後4時まで  
休館日：月曜日、祝祭日の翌日

